

平成31年度大分県学力定着状況調査結果のポイント(小学校)

国語

知識	活用
52.1(+0.4)	51.6(+0.5)

※()内は昨年度比

■ 結果概況

●全ての領域において、偏差値は50を上回り、正答率は目標値を上回っている。

□ 課題と改善

●段落のまとまりを理解して文章の内容を的確に読み取る問題に課題がある。

- 文章の構成を確かめるとともに、それぞれのまとまりや段落の役割について理解させることが大切である。例えば、筆者の説明の工夫を考えさせる学習を通して、「問いと答え」や「対比」「根拠」「まとめ」などの段落相互の関係を理解させることなどがある。また、指導する際には、書くことにおける学習と関連付けることも考えられる。

算数

知識	活用
52.2(+0.4)	52.1(+0.6)

※()内は昨年度比

■ 結果概況

●全ての領域で目標値を上回り、偏差値も50を上回っている。

□ 課題と改善

●「見通しをもち、筋道を立てて考え、その考え方や解決方法を説明する」ことに課題がある。

- 前提となる考えや理由などの根拠を明らかにして、論理的に考えたり説明したりすることが大切である。その際、児童が根拠を明確にして過不足なく説明できるように『説明の基本形』を利用して説明させるなどして、論理的な説明の組み立てに慣れることが必要である。

『説明の基本形(例)』

- ①考え方(根拠)を示し方針をはっきりさせる。
- ②取り出した情報を整理し、計算等を行う。
- ③答えにつながる計算や説明を行う。
- ④答え(結論)を導き出す。

※①～④に基づいた説明ができるように発達段階に応じた指導を行う事が大切である。
※説明を聞きながら、他者の足りない点(例えば①又は②)に気付くようにする。

理科

知識	活用
52.2(+0.6)	51.3(+0.2)

※()内は昨年度比

■ 結果概況

●全ての領域において、偏差値は50を上回り、正答率は目標値を上回っている。

□ 課題と改善

●自然現象についての概念を、既習内容と関係付けたりすることに課題がある。

●情報を必要な視点により整理することに課題がある。

- 学習指導要領解説理科編の「各分野の目標及び内容」を参考に指導する。
→ 小学生のための「言語能力」育成ハンドブック(p10)を参考に以下の指導をする。
- ・共通点や相違点から情報を比較する。
 - ・情報の変化の様子をとらえる。
 - ・情報を多面的、多角的にとらえる。
 - ・情報と情報のつながりを見付ける。

平成31年度大分県学力定着状況調査結果のポイント(中学校)

国語

知識	活用
51.8(-0.2)	50.5(+0.1)

※()内は昨年度比

■ 結果概況

●全ての領域において、偏差値は50を上回り、正答率は目標値を上回っている。

□ 課題と改善

●登場人物の心情をとらえることに課題がある。

→ 指導としては、言葉を手掛かりとしながら文脈をたどり、観点を定めて読むことが必要である。文章の中の場面の展開、登場人物の相互関係や心情の変化、行動や情景の描写に注意して読み進めることが大切である。

社会

知識	活用
50.5(-0.4)	50.3(+0.6)

※()内は昨年度比

■ 結果概況

●知識・活用ともに偏差値50を上回り、全ての領域・観点においても偏差値50を上回っている。

□ 課題と改善

●地図の読図や地域に関する情報収集や処理などの地理的技能に課題がある。

→ 平素から地図帳を十分活用するとともに、生徒の地理的技能の習熟の様子を踏まえながら、地図から様々な情報を読み取る活動を繰り返し指導する。

数学

知識	活用
50.7(-0.6)	50.6(+0.4)

※()内は昨年度比

■ 結果概況

●全ての領域、観点で目標値を上回り、偏差値も50を上回っている。

□ 課題と改善

●「事柄を調べる方法や事柄が成り立つ理由を数学的な表現を用いて説明すること」に課題がある。

→ 生徒に「数学的な表現を用いて説明する力」を身に付けさせるためには、日頃の授業の中で、『説明の基本形』を利用して説明させるなどして、論理的な説明の組み立てに慣れることが必要である。

『説明の基本形(例)』

- ① 考え方(根拠)を示し方針をはっきりさせる。
- ② 取り出した情報を整理し、計算等を行う。
- ③ 答えにつながる計算や説明を行う。
- ④ 答え(結論)を導き出す。

※①～④に基づいた説明ができるように発達段階に応じた指導を行う事が大切である。
※説明を聞きながら、他者の足りない点(例えば①又は②)に気付くようにする。

理科

知識	活用
50.9(+0.2)	50.5(+0.6)

※()内は昨年度比

■ 結果概況

●全ての領域で偏差値50を上回っており、どの領域も全国並の定着が図られている。

□ 課題と改善

●課題と実験結果と自然事象を関連付けることに課題がある。

→ 「言語能力」育成ハンドブック中学校用(p12,17)を参考に、情報を因果関係、相関関係、包含関係により整理・分析する指導をする。

英語

知識	活用
50.3(-0.4)	50.3(-0.3)

※()内は昨年度比

■ 結果概況

●知識・活用ともに偏差値50を超えたが、「書くこと」における無解答率が多い。

□ 課題と改善

●実生活に関連した課題の設定や、互いの考えや気持ちを伝え合う言語活動の設定に課題がある。

→ 繰り返しや練習に留まらず、実際に英語を使って伝え合う言語活動を行う必要がある。
→ ある技能に特化した指導でなく、「聞いたり」「読んだり」して得た情報等を、「話したり」「書いたり」して伝え合う技能統合型の言語活動を行う必要がある。